



特別
ル 4
5597
5





お系母系を産ま之又

下賀茂付 沙白洗川

那乃東女解所ありて沙祖神社南ひさり
多り。沙白や乃神はさき賀茂氏此先祖健角
命のむとめ玉依姫あり。その事人草堂親
の事小はさそてあやめ鏡明と名置の沙白に賀茂
と下乃神とまうりゆりあひ社乃井あり下賀
茂とは此の文と号と

玉系

高を初め乃多と人さつ此乃木の葉此玉垣 玉系
沙白洗川と云事社乃東のさうりあうり川あり。あま
は清ら水とさおわ井ありとらふ小社とて井垣ひ
こころ。六月被は美茂と名置の沙白ありとてまねと



景龍宮をそとじとてさうふもゆてたけおれ今
 ぞうしとあつらへ入目とをうつてさうふと
 ふとふかのりく景龍宮とびふは清くさうふ
 うりぬまよくさうてあぐさあへふたさうふ
 つまらで奥の法とさうふとて

人々の物をもとてさうふとてさうふとて
 ねえ小川

社の前れさうふとてさうふとてさうふとて
 ろの寺合よ景龍宮の寺さう

石川やをさうふとてさうふとてさうふとて
 さうふとてさうふとてさうふとてさうふとて
 さうふとてさうふとてさうふとてさうふとて
 さうふとてさうふとてさうふとてさうふとて

これ新大蔵川の奥にありとてつづつとけつとてを
うきんの新と新古入うへ入るをれいあめりるの
面固ありとてうへとびり申。長明とてうへをりあ
あふりてとて新大蔵

年とれ新大蔵の御中を考我身經の山川如ん

上賀茂

下賀茂より一里つり少あり。中屋の中
くまつとて式はくまつとてくまつとてくまつ
切まり。これ新大蔵をいふ神のつづつとて
右と地

新大蔵の御中を考我身經の山川如ん
とて新大蔵の御中を考我身經の山川如ん
一ハ新大蔵とてつづつとてつづつとて

多し一ハ健甬命乃びとめ鴨川とて白根の
ひろむとれとて盛とて子とてうり。とてとて
神下賀茂あり。白根夫ハ松尾明神あり。とて
上賀茂別當神ありとて。敏行朝臣とて
比とて。新大蔵の御中を考我身經の山川如ん
賀茂守とてつづつとて

とてとて。新大蔵の御中を考我身經の山川如ん
とてとて。新大蔵の御中を考我身經の山川如ん

新大蔵

新大蔵の御中を考我身經の山川如ん
新大蔵の御中を考我身經の山川如ん
新大蔵の御中を考我身經の山川如ん

此の正統社の後弟社のより先お方の鴨の川向を
定守の神社の東にあり。と云ふ東平といふより
慈法初高寺なり

月とあてておと神のありのやうに人ありを
橋中の社に本社よりまうでりなる方よりあり
最原実方朝臣といふも。そのわたりふあり橋と楠
橋といふづ

又最原の園系は月の中申是これ鴨の社系也
又最原系といふは月の中此節日あり飲明ら此
涉らうらうらまきり。人々養養とくけてまひ
そのお目お最原尾の社可い養養とくくく也
と最原の養養あり。養養と養養のくけ法て
のばは養養几帳りくふそ乃而ハ養養らどと

古と養養といふ乃ゆりもくふと也古す

ふとくは養養のくく養養あり

身とくは我神社の養養くくふとく無と養養

競馬

先月朔日と云は橋といふづ女官なるもくく
はの園といふ。もつた名なり。将といひ衆人布衣
り衆りといふ。一とづつかけきき。此足なり
きき。二とづつかけきき。場中
り橋乃来あり。これと橋乃来と云ふ
のおあてて養養の橋員といふ。同月日と競馬と
くづ。衆人の養養二とづつかけきき。場中
と橋と衆人と云は橋員ハ朔日なり。この場中
橋員くふ事ハ。通て正月元日なり。その場中



ね狩りて又馬よめさばさうきぬきとて申
 もあり。足箱のくどもけあつるをたかきとてひ
 わりくかろがどに用のごく花あまごいさよけら
 ードとあごまうつもおあさひさくびくさくげふま
 てもめつふささういれ茶子のおさくさく東乃あま
 ぐりけ梅もあり。さうあつて氣とさうさうなみ
 足とあさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 本乃まさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 けらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ど。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 るさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 とらあさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 がゆか競るもさうさうさうさうさうさうさうさう

むくはくどもつひらぬらんととちつど碑さうぶ
てらりくうありぬ

まてはまいたたあひはかふるまふまふれがた

片曇毒

賀茂川よりわのこよあり。紫武アアア

阿多あまうかといふ是れ毒の末ふたらやねま

賀茂政年アアア

まるととれどくはたすまわつる島の神とあて

片曇乃社まふまふ人まふまふまふまふまふ

小野

むえれ山の西坂年アア小野とまむ二所ありアア

松乃橋乃あまらとら。苗の山際まてといふこよ小野

九師といふ小野九師乃徳名あり。まむまむまむ小

野乃東のこまむまむ地形といふまむまむまむまむ
まむ川といふまむ野村乃東と小野細と名つて。けま
まむ小野橋とて橋あり。それまむまむまむ小野繩と
いふ源氏よりまむまむまむまむまむまむまむまむ
まむ。まむまむまむまむ

まむまむまむまむまむまむまむまむまむまむ

まむまむまむまむまむまむまむまむまむまむ

まむまむまむまむまむまむまむまむまむまむ

まむまむまむまむまむまむまむまむまむまむ

まむまむまむまむまむまむまむまむまむまむ

まむまむまむまむまむまむまむまむまむまむ

まむまむまむまむまむまむまむまむまむまむ

まむまむまむまむまむまむまむまむまむまむ

婦ひしと東平初長膝月乃れづこやふりつて
こよまてい夏つこもあまの言やまて老らん
とらみし。伊勢物語終りし。幸う子陸あつ時い
わりし。般初長乃ぬり。雪けり梅花沙流んト
こらをあひてよませ給ふ

あひあふふこをせ梅花作ふ白ひの雪とらまは
又紀費くは室くしとら時あまをんくよめり
秋乃おお葉とぬらこ室いとし家こをぬん此
らつ岩屋くあつてやあもたわく小登乃炭く海を
よりり後集にやう

小登山や炭屋電より地じ爪くこまつとら年い
血海のよりまやどの炭屋にたぬいこらわらまら
ハヤセ

いふむらて水のくこ葉より二室あまの世村家れり
ほりりまらり。よまといよめのと葉とて葉よ
新とすうきとあを。けつらとらう空風呂とらう生
あと梅くその気とらうあいらりありとて給ふ人
らつこあつとらめをいどゆぬい風呂う入ゆりそ給
とるらりてこらら。然り山とらこのあつ物志のくま
免やうふゆゆとら。元禄法師 号り

目よそて海を航よ小登屋との室らる妹とらとら
月月初乃辰の日は室れ系礼とて天神の所集一社
中とらう海とも井のあつて競ると畜あり。其の物
りて白布の髪髪とらを。屋乃あふ沙佐右乃のまら
とらといん。た一人登固打つと神あつとら。室中の
男ららとの老たるとら小舞屋よあつらるるを給うらと

とて八瀬乃里人の言え此等子の事おぼがらも言
髪り結髪はをけ目いふとけは糖してうけし
を程うあつたのうけり乃等と程うけ
拜履う入てさあましくしてをたれり頭つ。
御書とさうしてあつた程名づり行とさふ
とて七八夜も社のおとろはえり程をさう一回り
鹿といふも幸あましくしてをさうとさううけり
て程とていふ免。社にうけりては源まていふ
神事あまの御人おりて見りゆ也

昔性乃たのふへる病人の言ははよやとの答は言

鬼談

八瀬乃里とて西の志方う鬼が條とて物行そり来
思ふ家ありその由り程をさう。南麓のけりては

つてひりー海邊を子ひえ乃山あり遊おされけいんやま
こまのびる石のうけり程あつたりとては丹はふ大
江山ありて源の程老よとらさうとてや夜原のあつた
其の鬼と名づけりては回村丸の程易於麻山は程とこ
海一後を源の程とては東さ其程生門乃程とては和列
字多れ其の程とては。能大將軍平維茂の程とては
隠山乃程とてはうりては。も外其國守初も程とては
たをれぬりては。さうとて今い何世程とては。佛は
禁言とては。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
と物火車乃程とては。あつた。あつた。あつた。あつた。
さうの程とては。あつた。あつた。あつた。あつた。
つては。あつた。あつた。あつた。あつた。
さうしては。あつた。あつた。あつた。あつた。



やつふとの大和河内乃さういま田越れ作らうゆき
 面う松冠候とあて鬼れかまきし人と追たし
 ぎさうしーとやほふおと人乃科あさ人とさ
 物とうづい冠あさどやと桑のさやと和合梅の女
 はまぬぐ冠あさどやと桑のさやと和合梅の女
 はまぬぐ冠あさどやと桑のさやと和合梅の女
 が安達くあ乃平い女と鬼とよめり

大原

知らう三里りり八瀬らまハ一里りり山あり村家
 らあひいあさどやと桑のさやと和合梅の女
 らあひいあさどやと桑のさやと和合梅の女
 らあひいあさどやと桑のさやと和合梅の女
 らあひいあさどやと桑のさやと和合梅の女

むらやれあめとらゆ一筋の言ハはとわつた
紫うせうねてしと交うしをさうり行まずよつはた
んをうまう先感真とたにけしつらあうぞむう
舞終法師け里よすまをほいりよら

為来てたかまふもあじつらうつらるの白書
雅方朝長このあうりこもりわて

晴くまの月も向ぬるも居れ無とそつ人よ言とわ
とよらゆらうまぞあひまうあうり也。二月との卯日
け里乃うつらうそ競るはぐんせ終日あぶなう
男も女と老あひとけりこぞりけそぶふ事也。母
大原といひ小原といふ。大原乃字ハ智れども原ハけし
原あり。うとあぐり乃果とて樂といふ物と棋。馬
といふ物とあふて。女ハ洗物らうらうとあけりして發

うけくしと。白布とくらのさあさあぞとて。紫本
といふま。目してに象うあて賣たふ人ぐり山家よ位
といふどあきうとあうんといふむ。ほじさそかん
これ建礼の院大原うことらと給ひいふ人の。及こ
てまうつ事とわもゆかかりて打そんともいへ
氣とぞいひつらふ小原本とざりといふあわりそ
家乃大ま事ありとて申樂ももの物とらとて
思ふと賣た事也

大原と名よひを大我良いしとけり小原也とて

東宮院付を明橋

け流ハ良忠上人の軍臺あり。本そのは産後の河原池
をり能橋の河原と号とを法終上人ハ大原乃願
と回をあり。念佛法生乃とてとられ

定例と云ふらしく鑑起り之をいへり右にぞ。はる
 八尾初家田乃人なり。唐山よのりて天台入法流
 自覚僧初り。字一云云乃者と云ふと何家系より
 け橋川流河より源徳元年大原よりかき東近院
 とある。師一佛法と云ふは。其の法。結賢の院の女房の
 縁よりまうて来り。師道と云ふは。あつ時より。女
 乃よりして年いまこある。ありて。あつて。堂乃奥
 ふくまうせん。かかぬ世の人の。先。お。是。夜。と。思。て
 いたう。と。人の。徳。り。と。い。わ。り。ま。り。て。い。め。り。と。い。ふ
 なり。と。た。た。を。り。ま。あ。が。は。は。と。い。て。し。と。り。な。い。ま
 け。と。も。も。と。と。人。や。ま。い。何。ら。う。う。う。う。ま。た。た。ん。ん。ん。ん
 と。い。か。し。色。す。べ。う。に。と。也。女。房。と。な。つ。ら。後。と。も。り。法
 名。と。は。住。持。と。も。い。は。ま。ら。れ。ら。う。と。人。あ。つ。と。た。八。字。之。殊。乃

は。と。れ。ま。り。れ。り。の。名。を。變。じ。て。柳。子。と。あり。
 存。と。う。け。り。と。い。は。ま。け。び。ら。又。あ。つ。日。あ。や。り。と。い。ふ
 つ。と。い。と。と。師。道。念。佛。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。日。が。徳。の。徳。り
 兼。通。し。人。の。功。徳。の。家。兼。通。し。た。が。い。う。功。徳。と。い。ふ
 就。ち。は。大。方。に。記。存。あり。と。也。師。道。に。天。神。地。祇。の。い
 兼。通。と。念。佛。の。儀。を。な。り。と。い。ふ。と。い。ふ。名。懐。と。い。ふ
 と。師。道。の。師。の。思。ひ。の。あり。と。い。う。事。あり。と。い。ふ。な
 つ。兼。通。と。念。佛。と。い。ふ。と。免。度。の。道。徳。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。
 仁。二。年。より。東。近。院。と。兼。通。し。天。嘉。二。年。二。月
 一。日。より。近。住。と。兼。通。し。中。一。あり。一。切。師。道。と。い。ふ。と。い。ふ
 ら。は。い。う。師。道。と。い。ふ。師。道。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ
 と。い。ふ。と。い。ふ。師。道。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ
 師。道。と。い。ふ。と。い。ふ。師。道。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ
 師。道。と。い。ふ。と。い。ふ。師。道。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ



疎ふくまの人の目より橋の〜こよおそり〜と大熱あ
 こととみして。えはららどとわ。多野山〜も雲の巻
 橋あり。はと深多れいえはららど〜つてと寄る

大原よれせうとれは随分是そ縁のせうとぬける
 大原の清水 付着無事

大原乃らりふあり果午初長れ〜
 大原や能井井れらと結あきてある〜
 大原好忠

大原やせう井乃あぢまは別なてゆり〜
 大原よ能井文たり〜
 大原の跡あり。小野山乃〜
 大原よ能井文たり〜
 小野山乃〜

かぞひつぎふ

水原

水原の茶を茶屋に売られたりといふ事あり

茶屋

大原の茶びりありは徳大寺名茶なり

世に名茶と云ふは徳大寺の茶なり

大原茶屋は徳大寺の茶なり

徳大寺の茶は徳大寺の茶なり

徳大寺の茶は徳大寺の茶なり

徳大寺の茶は徳大寺の茶なり

徳大寺の茶は徳大寺の茶なり

徳大寺の茶は徳大寺の茶なり

徳大寺

大原より水原へは徳大寺の茶なり

徳大寺の茶は徳大寺の茶なり

徳大寺の茶は徳大寺の茶なり

徳大寺の茶は徳大寺の茶なり

徳大寺の茶は徳大寺の茶なり

徳大寺の茶は徳大寺の茶なり

徳大寺の茶は徳大寺の茶なり

徳大寺の茶は徳大寺の茶なり

徳大寺の茶は徳大寺の茶なり

徳大寺の茶は徳大寺の茶なり

徳大寺の茶は徳大寺の茶なり

徳大寺の茶は徳大寺の茶なり

徳大寺の茶は徳大寺の茶なり



水あふくたのたるとまふて日暮たりたつこころは

市原付小所暮二津

てんてん

見ぞら地乃水のまあり民家けり男女若くあ
 まあひはまふあまとき京よりとこびわて目ごのま
 としあり小所小所の暮わり小所をすかぬつら
 親あり國を公奴乃人としてあしも衣通船乃あつを
 くこし平乃るるるあまの深あまの位せおよあひを
 らせこしんごしとせさうとせれ小所よ物の性
 とて國をあまのゆりひわくあつぬとごよありづる
 うしあまよまありて死ありし市原付を乃懐
 のまにかさうといふ仁明と皇れ海付義和乃らるる
 人ありあつあまよまありすなり小所がまあま
 海をさうといふ書い定海和乃作といふおれあま

夢に地をたつたるもその骨原より思はつ
乃本像と拾ひえりてすおつら其より堂とて思
ゆつと居りてまらる。白馬より鞍とてその是地と
と見えしとて鞍馬寺と号しとて其地を鞍馬の
像とてまらる。鞍馬寺とて其地を鞍馬の
乃名なり一人の鞍馬ありて其地を鞍馬の
名なり一人の鞍馬ありて其地を鞍馬の
ひととて。又一つとて其地を鞍馬の
と西の親善院とて其地を鞍馬の
其地あり。鞍馬の東より干将師あり。其地を
おつめけり。其地を鞍馬の
りて其地を鞍馬の寺とて。其地を鞍馬の
て坐禪とて。女の坐禪なり。其地を鞍馬の

の中よはをへりて其地を鞍馬の
らくはそりて其地を鞍馬の
りて其地を鞍馬の寺とて。其地を鞍馬の
修善人より其地を鞍馬の
大より感徳し其地を鞍馬の
五月小幡唐とて其地を鞍馬の
て其地を鞍馬の寺とて。其地を鞍馬の
思はつ乃思とて其地を鞍馬の
なり。三日の夜修善人ありて其地を鞍馬の
帝より其地を鞍馬の寺とて。其地を鞍馬の
りて其地を鞍馬の寺とて。其地を鞍馬の
坐禪とて。其地を鞍馬の寺とて。其地を鞍馬の
坐禪とて。其地を鞍馬の寺とて。其地を鞍馬の

ふ山より大徳川より。繩うしてわもぬる修多羅といふ
物り中より石のまてまらうかろとと糸箱のふはふ
と糸綫と入替まの又傳子といわぐ糸箱ののふと糸
しとこの糸也信正言の緒る山の奥あるのこころあり。
源義経いまご半あ丸といむし何わやしと人よきそ
糸はとあひしと是今も義経のそり甲とそり糸の
什物わらひしと大と物信正房の位和といふり。是と
魁として毛宿子を糸信正房は山乃高信正房は信正の
は信正信正は乃信正糸後河より信正乃高信正信正
三節と野乃糸信正信正信正信正信正信正信正信正
彦山のそお信正信正の大山よ信正信正信正信正信正
志高の信正信正の信正信正信正信正信正信正信正信正
の信正信正信正信正信正信正信正信正信正信正信正

形統の信正信正信正信正信正信正信正信正信正信正
凡まがりあるまとありまらとやむし信正信正信正
まきまら信正信正信正信正信正信正信正信正信正
ゆり大道とやまら信正信正信正信正信正信正信正
たり信正信正信正信正信正信正信正信正信正信正
と乃在の信正信正信正信正信正信正信正信正信正
と信正信正信正信正信正信正信正信正信正信正
又信正信正信正信正信正信正信正信正信正信正
凡まがりあるまとありまらとやむし信正信正信正
生息あんまらとありまらとやむし信正信正信正
信正信正信正信正信正信正信正信正信正信正
信正信正信正信正信正信正信正信正信正信正
信正信正信正信正信正信正信正信正信正信正
信正信正信正信正信正信正信正信正信正信正



くまの

わさあつたをなれらへつらうと梅子さつり人の為を梅梅
 傷心うきふん乃の候あて本の気天梅やうんてらうん

晴部山

くゆりつさ晴部の山あり紅雲くくつら

梅のむ白きくくふゆいふいふいふいふいふいふいふいふ

上原元方

秋乃秋れ月のまじあけきくくあひあひこぬらこ
 てきあけひいりくくく

くそゆりつさあわわ晴部山とくは嫌火どらり梅

岩屋

岩屋の山は法師の軍書本きい石佛れお初明主
 あり具路つらうあくくそ結人結くあくく集結とあ
 あくくあくくあくくあくくあくくあくくあくくあくくあ



玉鳳池これあり。はなう妙なるを花巻と名づく。此
 園院乃法儀乃湯新わりの。とこはさうと神と本像
 りはくろしふなりと也けし此来り。勢物もまゝ如寺新
 安もとそあり。そ平起り。あうと内と外とつゝ西家
 心寺。お乃門ありとさう。東乃さうあり。今らうと
 佛道心とたもしふま利

禅法乃悟の法孫お心るおさう。お毎と悟何也

お東母お心るおさうと又流

